

第69回 ビジネス文書実務検定試験 (4. 11. 27)

第1級速度部門問題 模範解答

駅や商業施設などで、広告が表示されるディスプレイを見かける	30
ことが多くなった。これはデジタルサイネージ（電子看板）と呼ば	60
れ、動画や静止画像を表示する広告媒体だ。これまでの紙を使った	90
ポスターとは異なり、相手によって内容を変更することができる。	120
より訴求力の高い広告を表示できるため、販売促進の手段として多	150
くの企業から注目されている。	165
ある小売店では、電子端末の付いた買い物カートに、様々な広告	195
を表示する実験を行っている。利用者が商品のバーコードを端末に	225
読み取らせると、AIが似た特徴を持つ異なった分野の商品を検索	255
し、瞬時に広告として表示する。例えば、辛い味の菓子を購入しよ	285
うとすると、激辛の即席めんが紹介される。消費者自身が気付いて	315
いないニーズを刺激することで、購買量が増えた商品もあった。	345
生活習慣を改善するために、電子看板を活用している企業も登場	375
した。大学の学生食堂と連携して、事前に登録された個人の情報を	405
もとに、一人ひとりの健康状態に合わせて、食事の提案をするもの	435
だ。例えば、塩分を控えたメニューを提示したり、サラダを値引き	465
するクーポンを提供したりすることによって、健康的な食生活への	495
意識を高めていくことをねらいとしている。	516
電子看板の市場は、高速インターネットの普及に、ディスプレイ	546
の低価格化が後押しとなって、これまで以上に成長することが見込	576
まれる。設置場所の多様化が進み、タクシーやエレベーターの中な	606
どにも導入されている。公共施設でのフロア案内や避難誘導でも使	636
われており、広告以外にも活用されるようになってきた。電子看板	666
は、これからも新たな用途が考え出され、情報を伝えるツールとし	696
てさらに進化することだろう。	710

第69回 ビジネス文書実務検定試験 (4.11.27)

第2級速度部門問題 模範解答

誕生石とは、各月に割り当てられた宝石のことをいう。昨年末に	30
国内の宝飾品関係の3団体によって改定し、新たに10種類の石が	60
追加された。この改定は63年ぶりであったため、SNSを中心と	90
して話題になった。	100
諸説あるが、誕生石は18世紀にポーランドの宝石商が考案し、	130
各地に広まったといわれている。その後、いくつもの団体がそれぞ	160
れにアレンジを加えたことにより、各月の誕生石が異なっていた。	190
米国で1912年に開催された宝石商組合の大会において、宝石の	220
普及を目的として初めて統一が図られた。	240
米国で定めたものを参考に、日本では国内の風土や風習に合わせ	270
た修正が加えられた。今回新しく追加された石は、春の桜や夏の森	300
などを感じさせるもので、日本の四季を連想させる。どの月におい	330
ても複数の色の石が入ったことで、選択の幅が広がった。	357
自然によって作られた石には地球の力が宿っており、身に着ける	387
ことで幸運を呼び寄せるともいわれている。それぞれの宝石には、	417
意味や石言葉が込められている。この機会に、自分自身の誕生石を	447
調べてみてはどうだろうか。	460